

短 報

2022年に確認された
安田城跡（富山県富山市）の水生動物

岩田 朋文¹⁾, 不破 光大²⁾

¹⁾ 富山市科学博物館 939-8084 富山市西中野町一丁目8-31

²⁾ 魚津水族館 937-0857 魚津市三ヶ1390

**A List of Aquatic Animals Collected
at Yasuda Jô Seki Historical Landmark,
Toyama Prefecture, Japan in 2022**

Tomofumi Iwata¹⁾ and Mitsuhiro Fuwa²⁾

¹⁾ Toyama Science Museum, 1-8-31 Nishinakano-machi,
Toyama 939-8084, Japan

²⁾ Uozu Aquarium, 1390 Sanga, Uozu, Toyama 937-0857,
Japan

1. はじめに

富山県富山市婦中町安田に所在する安田城跡は、戦国の平城の遺構を残す史跡であり、1981年2月23日に国史跡へ指定された（富山市教育委員会埋蔵文化財センター、2019）。その後、1981～1986年に土地公有化が、1990～1993年に史跡整備事業がそれぞれ実施され、1993年5月13日から「安田城跡歴史の広場」として一般公開されている（富山市教育委員会埋蔵文化財センター、2019）。

しかし、開場から四半世紀以上が経過した現在、広場では史跡の本質的価値の的確な伝達や、積極的な活用を行う上で様々な問題が生じており、特に、安田城跡の最大の魅力である水堀では、堀底に泥が厚く堆積し、スイレンが水面を覆うなどして、水堀で防御した本来の姿が理解しづらくなっている（富山市教育委員会埋蔵文化財センター、2019）。そこで、安田城跡を適切に保護・公開し、歴史学習や憩いの場として一層の利用促進を図るため、国庫補助金（文化財保護事業費、歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業）や県費補助金の交付を受け、2017年から再整備事業が始動した（富山市教育委員会埋蔵文化財センター、2019）。富山市埋蔵文化財センターによると、この再整備事業では歴史学習以外でも史跡の活用を図ることが重視されており、史跡に付随する自然などの活用も視野に入っているとのことである。

このような背景を踏まえ、筆者らは富山市埋蔵文化財センターから安田城跡の水堀の生物相調査を依頼され

た。本稿では、2022年に確認された水生動物について報告する。なお、筆者の不破は、カワリヌマエビ属の一種 *Neocaridina* sp. (外来種) をはじめ、2016年に安田城跡の水堀で確認した数種類の水生動物の写真を所有しているので、併せて記録する。

2. 調査方法

調査是水堀全域を対象とし、2022年6月2日、6月20日、10月24日に実施した。胴長を着用して水堀に入り、タモ網による掬い採りで水生動物を探索したほか、水堀岸辺からの目視による探索を行った。10月24日は水堀の浚渫を目的とした水抜きに立ち会い、捕獲された水生動物を記録した。

水生動物のうち昆虫類は、便宜上、『日本産水生昆虫科・属・種への検索（第二版）』（川合・谷田、2018）で扱われている種を対象とした。ただし、ジュウサンホシテントウ *Hippodamia tredecimpunctata* は草原や湿地で見られる種であるため（阪本、2018）、前記文献では扱われていないものの調査対象に含めた。

確認された水生動物は、できるだけ証拠となる標本もしくは写真を確保するように努めたが、それが適わなかった場合は、誤同定が生じる可能性がきわめて低い種に限り、目視のみによる記録も採用した。ほとんどの標本は富山市科学博物館に所蔵されている。

本調査で確認された種の個別記録（表S1）、写真記録の証拠写真（図S1～S25）、水堀の概観写真（図S26～S29）は、データリポジトリ figshare ですべてオンライン公開した（DOI: 10.6084/m9.figshare.22091057）。

3. 結果と考察

本調査では24科35種の水生動物が確認された（表1）。この中には、『環境省レッドリスト2020』（環境省、2020）もしくは『レッドデータブックとやま2012』（富山県、2012）に掲載されているトノサマガエル *Pelophylax nigromaculatus*、イネネクイハムシ *Donacia provostii*、コガムシ *Hydrochara affinis*、ハネナシアメンボ *Gerris nepalensis*、オオタニシ *Cipangopaludina japonica* が含まれていた。トノサマガエルは2個体の幼生がスイレンの葉の下で確認された。イネネクイハムシとハネナシアメンボは、アサザ群落で多数の個体が確認された。コガムシは浮島状のデトリタスにて1個体のみ確認された。オオタニシは水抜き作業中に1個体のみ確認された。イネネクイハムシとハネナシアメンボは多数の個体が確認されたことから、水堀に定着しているものと考えられる。

また、「日本の侵略的外来種ワースト100」に選定されているウシガエル *Lithobates catesbeianus*、オオクチバス

表1 主に2022年に安田城跡（富山県富山市）で確認された水生動物。

和名	学名
アオイトトンボ属の一種*	<i>Lestes</i> sp.
セスジイトトンボ	<i>Paracercion hieroglyphicum</i>
アジアイトトンボ**/**	<i>Ichnura asiatica</i>
ギンヤンマ	<i>Anax parthenope</i>
アキアカネ*	<i>Sympetrum frequens</i>
シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum</i>
ミズカマキリ	<i>Ranatra chinensis</i>
エサキコミズムシ	<i>Sigara septemlineata</i>
ハラグロコミズムシ	<i>Sigara nigroventralis</i>
マツモムシ*	<i>Notonecta triguttata</i>
ムモンミズカメムシ	<i>Mesovelgia miyamotoi</i>
アメンボ	<i>Aquarius paludum</i>
ヒメアメンボ	<i>Gerris latiabodomini</i>
ハネナシアメンボ	<i>Gerris nepalensis</i>
ミズギワカメムシ科の一種	Saldidae Gen. et sp. indet.
コガシラミズムシ	<i>Peltodytes intermedius</i>
コツブゲンゴロウ	<i>Noterus japonicus</i>
ヒメゲンゴロウ	<i>Rhantus suturalis</i>
チビゲンゴロウ	<i>Hydroglyphus japonicus</i>
コガムシ	<i>Hydrochara affinis</i>
ヒメガムシ	<i>Sternolophus rufipes</i>
キヒロヒラタガムシ	<i>Enochrus simulans</i>
ジュウサンホシテントウ	<i>Hippodamia tredecimpunctata</i>
イネネグイハムシ	<i>Donacia provostii</i>
ユスリカ科の一種*	Chironomidae Gen. et sp. indet.
ミズアブ	<i>Stratiomys japonica</i>
アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>
カワリヌマエビ属の一種**	<i>Neocaridina</i> sp.
オオタニシ	<i>Cipangopaludina japonica</i>
タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus</i>
コイ（飼育型）	<i>Cyprinus carpio</i>
フナ属の一種	<i>Carassius</i> sp.
オオクチバス	<i>Micropterus nigricans</i>
トノサマガエル*	<i>Pelophylax nigromaculatus</i>
ウシガエル*	<i>Lithobates catesbeianus</i>

注1：幼虫もしくは幼生のみに基づく記録は和名に「*」を付与。

注2：2016年のみ確認された種は和名に「**」を付与。

Micropterus nigricans, アメリカザリガニ *Procambarus clarkii* も発見された。いずれも水堀全域で多数の個体が確認されたため、水堀に定着しているものと考えられる。

カワリヌマエビ属の一種は、2016年に南東端の水堀で約10個体捕獲されたが、2022年の調査では再確認されなかった。また、草間ほか（2018）が記録したカミツキガメ *Chelydra serpentina* も再確認されなかった。そのため、この2種の過去の記録は偶産であった可能性が考えられる。

4. 謝辞

本稿を記すにあたり、調査地をご案内くださった富山市埋蔵文化財センター専門学芸員の細辻嘉門氏、写真記録の証拠写真手配でお世話になった同センター主幹学芸員の大野英子氏、現地調査にご協力くださった魚津水族館館長の稲村 修博士と富山市の不破日向氏、爬虫類および両生類の学名についてご教示くださった富山市科学博物館学芸員の清水海渡氏にお礼申し上げる（所属や役職は御協力くださった当時のもの）。

5. 引用文献

- 環境省, 2020. 環境省レッドリスト2020, 131p. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室. <https://www.env.go.jp/content/900515981.pdf> (2023年2月12日アクセス).
- 川合禎次・谷田一三（編）, 2018. 日本産水生昆虫 科・属・種への検索（第二版）, 1752p. 東海大学出版会.
- 草間 啓・不破光大・稲村 修, 2018. 富山市婦中町で確認されたカミツキガメ. 富山の生物, (57) : 89-90.
- 阪本優介, 2018. テントウムシハンドブック, 88p. 文一総合出版.
- 富山県（編）, 2012. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックとやま2012, 451p. 富山県生活環境文化部自然保護課.
- 富山市教育委員会埋蔵文化財センター（編）, 2019. 史跡安田城跡 再整備基本計画書, 159p. 富山市教育委員会.